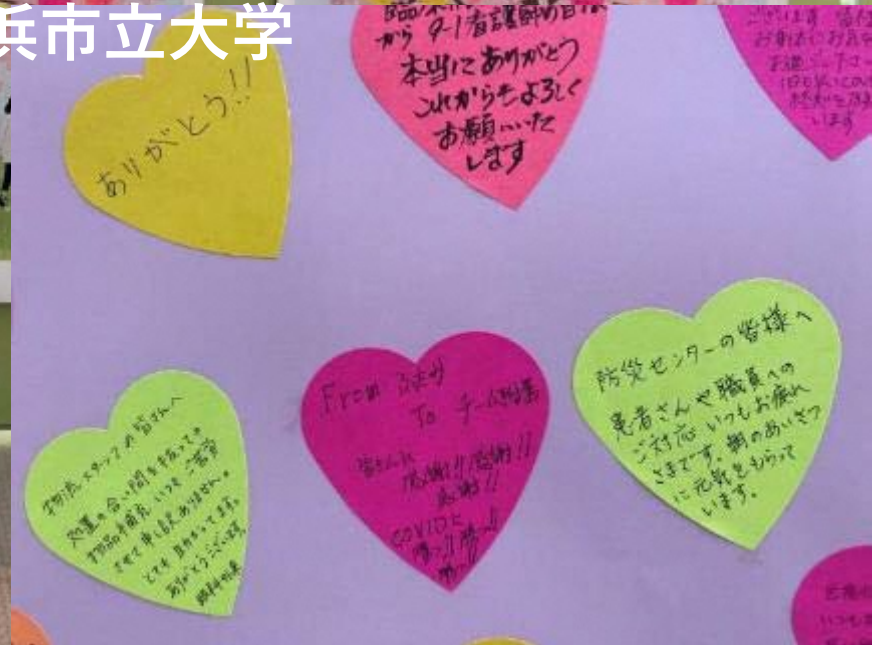
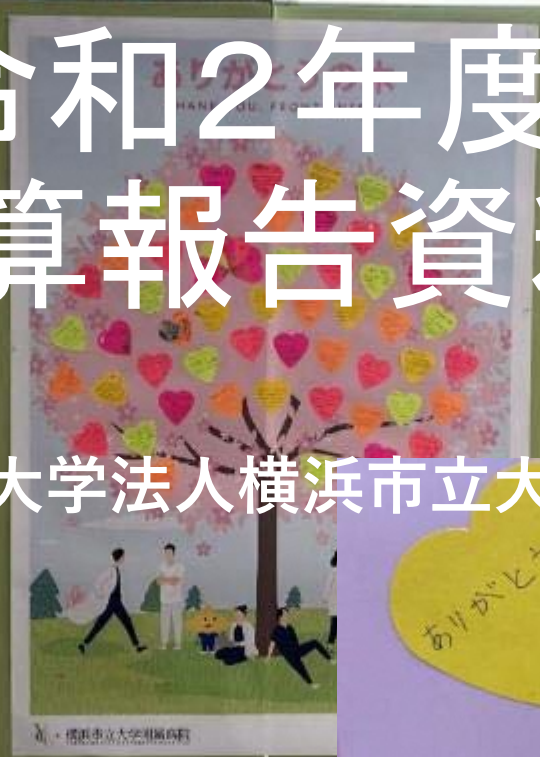


令和2年度 決算報告資料

公立大学法人横浜市立大学



1-1 決算総括(法人全体)

- 附属2病院ともにコロナ禍の中、入院・外来患者数は減少したものの、経営改善プロジェクトによる取組や診療報酬改定により、入院・外来単価の増につながり、医業収益は増益。国や県等によるコロナ関連補助金の受入れも加わり、全セグメントで黒字決算
- 当期総利益は3,151百万円となり、目的積立金として計画的に活用

<内容>

- ・経常費用 79,971百万円(対前年度+2,725百万円)
高額医療品使用量の増、コロナ特別手当の支給による人件費の増 等
- ・経常収益 82,840百万円(対前年度+5,978百万円)
入院・外来単価増による入院・外来収益の増、コロナ関連補助金の獲得 等
- ・経常利益 2,868百万円(対前年度+3,252百万円)
- ・当期純利益 2,762百万円(対前年度+3,288百万円)
血液照射装置除却費用の引当金計上91百万円(臨時損失)
令和元年度コロナ関連補助金の計上13百万円(臨時利益)
- ・目的積立金取崩 389百万円
- ・当期総利益 3,151百万円(対前年度+3,346百万円)

- ポストコロナでの法人経営を視野に、引き続き大学運営の一層の効率化や附属2病院における経営改善等に努め、安定した経営基盤の強化を図る

1-2 決算総括(セグメント別)

＜大学＞ 当期総利益:485百万円

- 研究費は、コロナ関連研究に対する大型AMED補助金の受入れもあり、全体で約11.3億円の受入額増となり、受入件数についても科学研究費、受託研究費、共同研究費、補助金で増加
- 光熱水費の単価・使用量の減や特許技術移転料の増収などもあり、前年度比較で332百万円の増益

＜附属病院＞ 当期総利益:2,022百万円

- 入院患者数、外来患者数、手術件数は減少したものの、平均在院日数の短縮や外来化学療法実施件数の増加等により入院・外来単価が上昇し、医業収益は前年度に比べて増加
- 国や県等からのコロナ関連補助金の受入れも加わり、前年度比較で2,008百万円の大幅増益

＜センター病院＞ 当期総利益:643百万円

- 入院患者数、外来患者数、手術件数は減少したものの、総合入院体制加算Ⅰ等の新たな加算の取得や外来化学療法実施件数の増加等により入院・外来単価が上昇し、コロナ禍の中でも前年度と同程度の医業収益を維持
- 国や県等からのコロナ関連補助金の受入れも加わり、前年度比較で1,005百万円の大幅増益となり黒字転換

1-3 利益要因(1)

- 附属2病院いずれも10億円を超える大幅増益となったことがR2の黒字に大きく寄与
- 昨年4月・5月の緊急事態宣言下における収支見通しは、両病院で約▲12億円
(附属:▲5.1億円、センター:▲6.6億円)
- 一般診療とコロナ対応を両立したことにより、黒字に転じることとなったが、
その主な要因は以下の3点

① 経営改善プロジェクトの成果

- ・ 新たな加算取得(総合入院体制加算 I【セ】、地域医療体制確保加算【附、セ】、画像診断管理加算2【附】等)※増収額約5億円
- ・ 平均在院日数の適正化による入院単価増 ※▲0.3日【附】、▲0.5日【セ】 など

<参考> 主な経営指標

項目	附属病院		センター病院	
	指標	R1決算比	指標	R1決算比
入院単価	87,215円	+7,472円	89,436円	+9,582円
入院患者数(延べ数)	191,299人	▲12,546人	209,905人	▲29,317人
病床稼働率	80.1%	▲5.1%	83.3%	▲6.7%
平均在院日数	12.1日	▲0.3日	11.3日	▲0.5日
外来単価	22,252円	+2,830円	24,539円	+2,957円
外来患者数/1日	1,743人	▲178人	1,810人	▲203人
手術件数	6,506件	▲190件	8,246件	▲806件

1-3 利益要因 (2)

②診療抑制下での紹介・逆紹介促進

⇒市中病院で対応可能な患者の逆紹介が進んだこと等により、大学病院の役割に沿った患者受入れに繋がり、入院・外来単価が増

③コロナ関連補助金の受入れ ※附属2病院総額:約68億円

・神奈川県新型コロナウイルス感染症緊急包括支援補助金(県)

⇒コロナ患者受入枠の確保に対する補助、空床補償の補助など

・新型コロナウイルス感染症患者等入院受入医療機関緊急支援事業補助金(国)

⇒附属2病院職員のコロナ特別手当などに活用

・新型コロナウイルス感染症患者の受入体制の緊急確保に伴う患者受入支援金(市)

⇒コロナ患者受入れをした医療機関に対する市独自の支援金 など

○センター病院は、特定機能病院である附属病院に比べ、コロナ感染拡大の影響による入院患者数の減少幅が大きく、黒字幅に差異がある

2-1 財務諸表(法人全体:費用)

<費用の部(対前年度比較)>

(単位:百万円)

		令和2年度	令和元年度	対前年度		
経常費用	業務費	教育経費	1,458	1,466	▲ 8	大型AMED補助金受入れに伴う支出の増等により対前年度比2.3億円の増
		研究経費	2,686	2,450	236	高額医薬品の使用量増加や診療材料の使用量増加等により対前年度比19億円の増
		診療経費	36,299	34,306	1,993	
		教育研究支援経費	566	439	127	
		受託研究費等	2,185	2,310	▲ 125	コロナ特別手当の支給や定期昇給等により対前年度比3.7億円の増
		人件費	35,295	34,922	373	
	業務費合計	78,494	75,898	2,596		
	一般管理費	1,476	1,346	130	対前年度比27億円の増	
経常費用合計		79,971	77,246	2,725		
臨時損失		135	151	▲ 16	血液照射装置処分にかかる引当金繰入 0.9億円等	
当期総利益		3,151	▲ 194	3,346		

2-1 財務諸表(法人全体:収益)

<収益の部(対前年度比較)>

(単位:百万円)

	令和2年度	令和元年度	対前年度	
経常収益	運営交付金収益	11,826	11,751	75
	授業料収益等	3,151	3,132	18
	附属病院収益	56,490	55,538	952
	受託研究等収益	2,623	2,721	▲ 98
	補助金等収益	5,781	662	5,119
	寄附金収益	579	682	▲ 103
	資産見返負債戻入	1,360	1,283	77
	雑益等	1,025	1,087	▲ 62
経常収益合計	82,840	76,861	5,978	
臨時利益	29	9	19	
目的積立金取崩額	389	331	57	

入院単価・外来単価の増に伴う収益の増により対前年度比9.5億円の増

コロナ関連補助金、大型AMED補助金の受入れ、修学支援新制度の開始による増等により、対前年度比51.1億円の増

対前年度比59.7億円の増

コロナ関連補助金(元年度分)等

2-2 財務諸表(セグメント別)

＜損益計算書(セグメント別)＞

(単位:百万円)

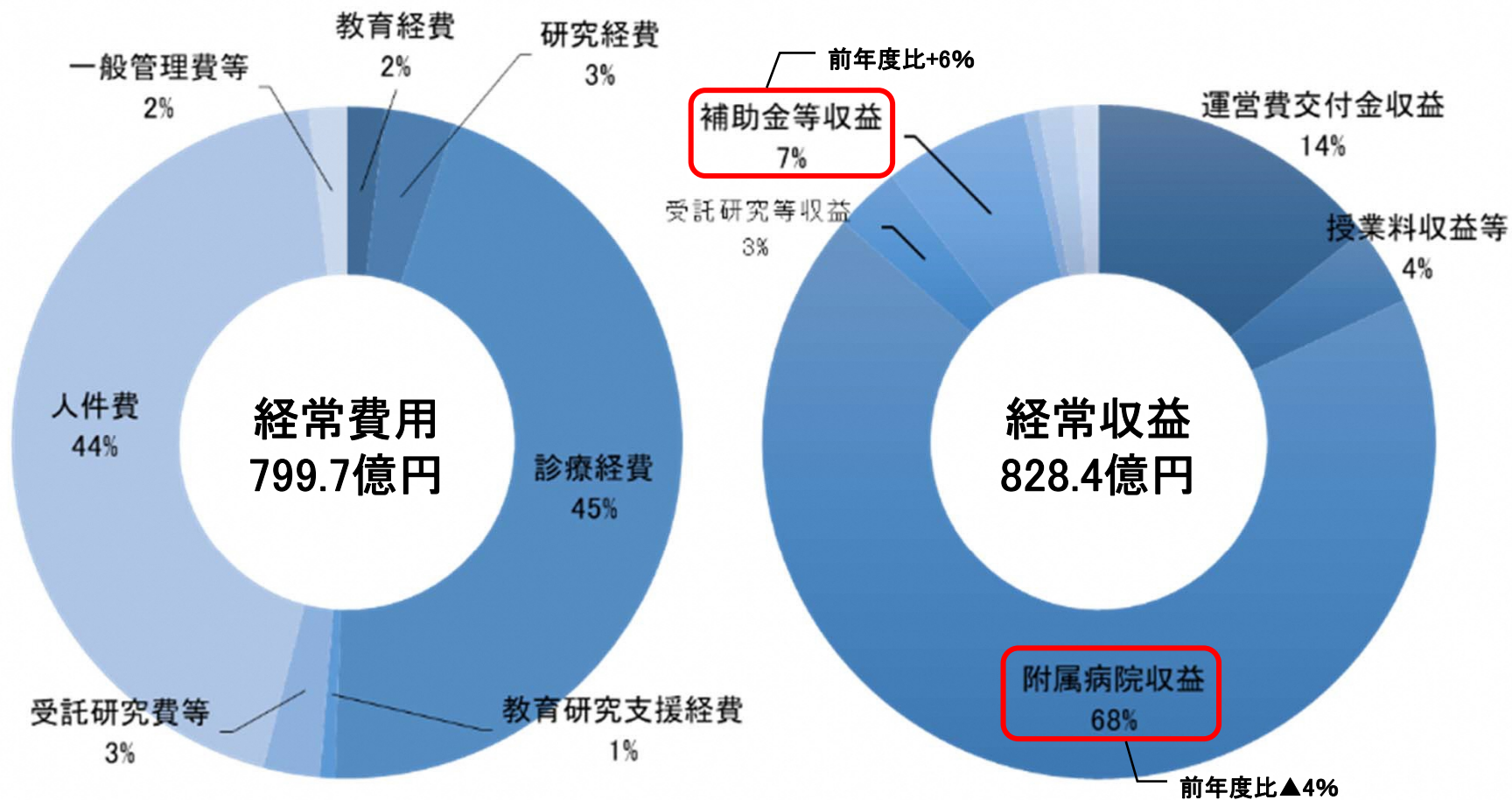
	セグメント情報				2年度 決算	元年度 決算	対前年 増減
	大学	附属病院	センター病院	法人共通			
経常費用①	14,777	31,136	34,141	▲ 83	79,971	77,246	2,725
経常収益②	14,985	33,130	34,807	▲ 83	82,840	76,861	5,978
経常損益③ (③=②-①)	208	1,994	666	-	2,868	▲ 384	3,252
臨時損失④	8	19	106	-	135	151	▲ 16
臨時利益⑤	9	7	11	-	29	9	19
当期純利益⑥ (⑥=③-④+⑤)	209	1,982	571	-	2,762	▲ 525	3,288
目的積立金取崩⑦	276	40	72	-	389	331	57
当期総利益⑧ (⑧=⑥+⑦)	485	2,022	643	-	3,151	▲ 194	3,346

※法人共通(▲83)・・・研究経費等におけるセグメント間での学内取引の相殺

※臨時損失(151)・・・センター病院における血液照射装置の処分に係る引当金繰入(91) 等

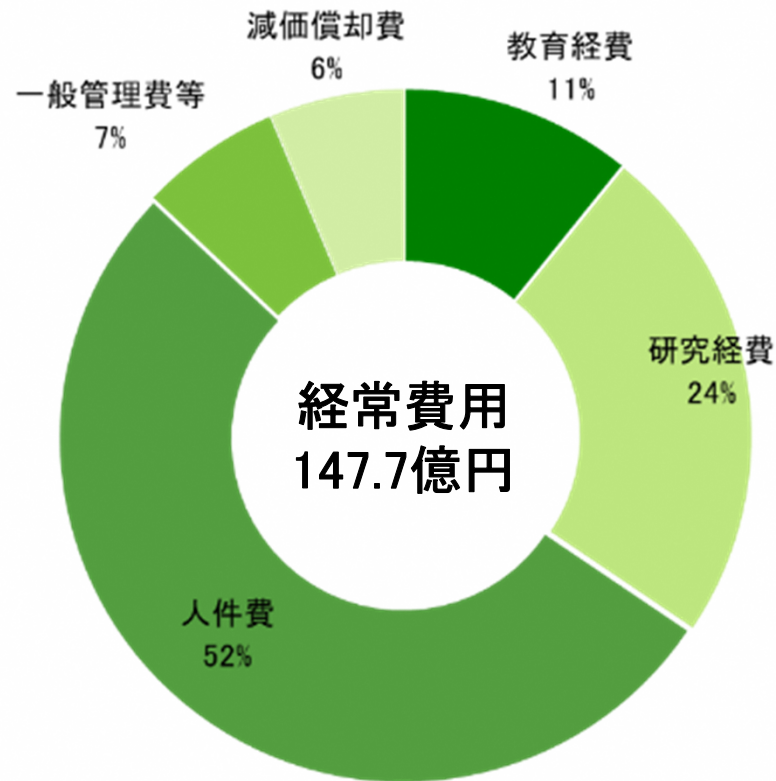
※臨時利益(27)・・・コロナ関連補助金(元年度分)の収益化(13) 等

2-3 財務諸表(經常損益・法人全体)



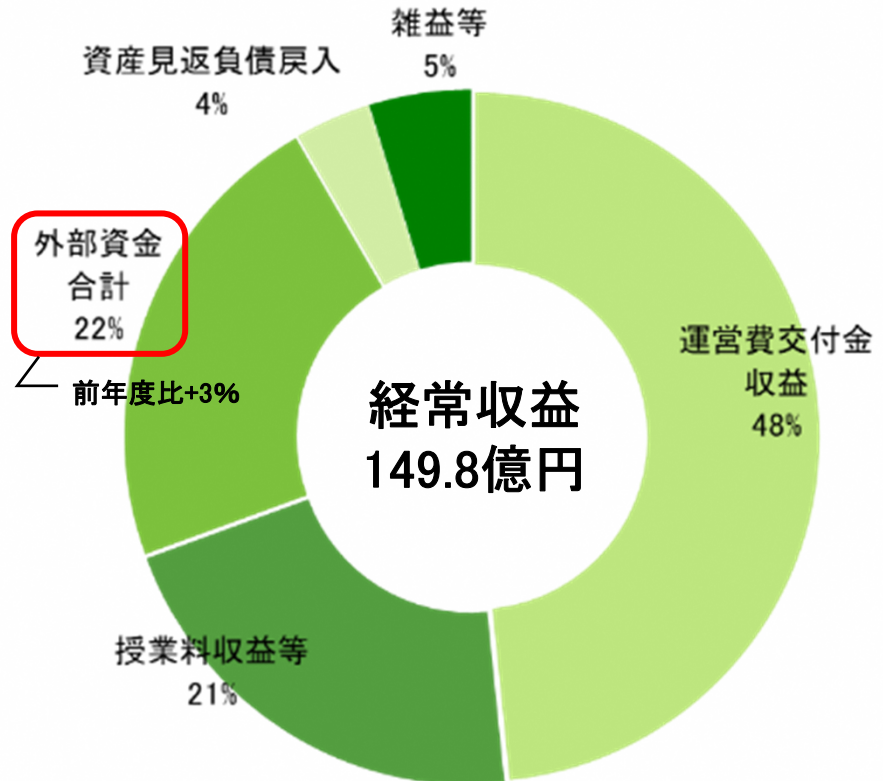
2-4 財務諸表

(經常損益: 主な増減要因)【大学】



■ 主な増減要因(単位:百万円)

- 【教育 +50】… 基幹ネットワーク更新(+67)、光熱水費(▲53) 等
- 【研究 +188】… 大型AMED補助金(+460)、奨学寄附金受入額減(▲136) 等
- 【人件費 +42】… 教員(+39)、職員(+40)、退職給付繰入(▲36) 等
- 【一般管理 +87】… 出退勤管理システム(+56)、MMサテライト開設(+27) 等

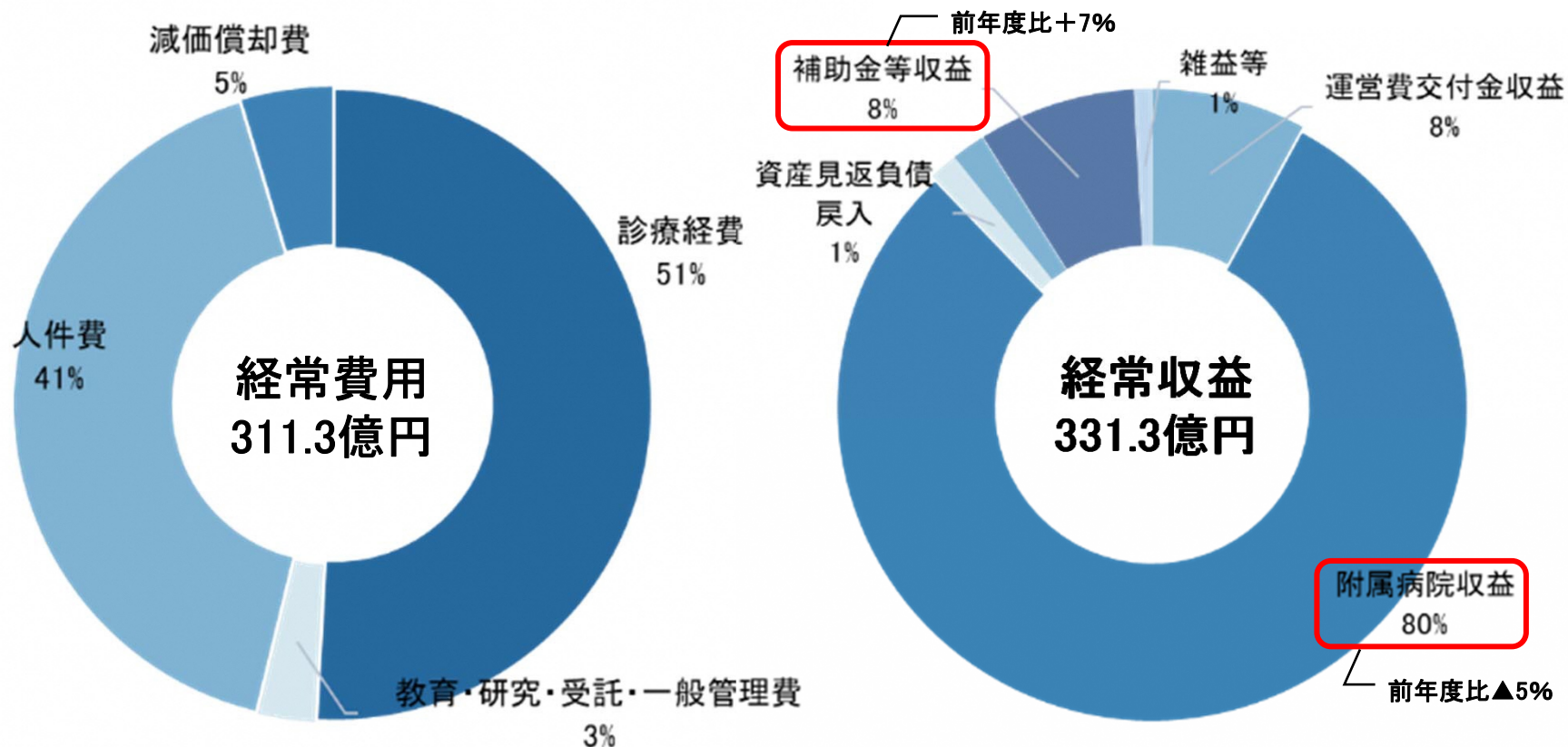


■ 主な増減要因(単位:百万円)

- 【授業料収益等 +18】… DS学部生、DS研究科生の増 等
- 【外部資金 +627】… 大型AMED補助金受入(+629) 修学支援新制度開始(+138) 等
- 【雑益等 +97】… 寄附金(+41)、損害保険料(+64)、特許技術移転料(+38)、エクステンション講座(▲11) 等

2-5 財務諸表

(經常損益: 主な増減要因)【附属】



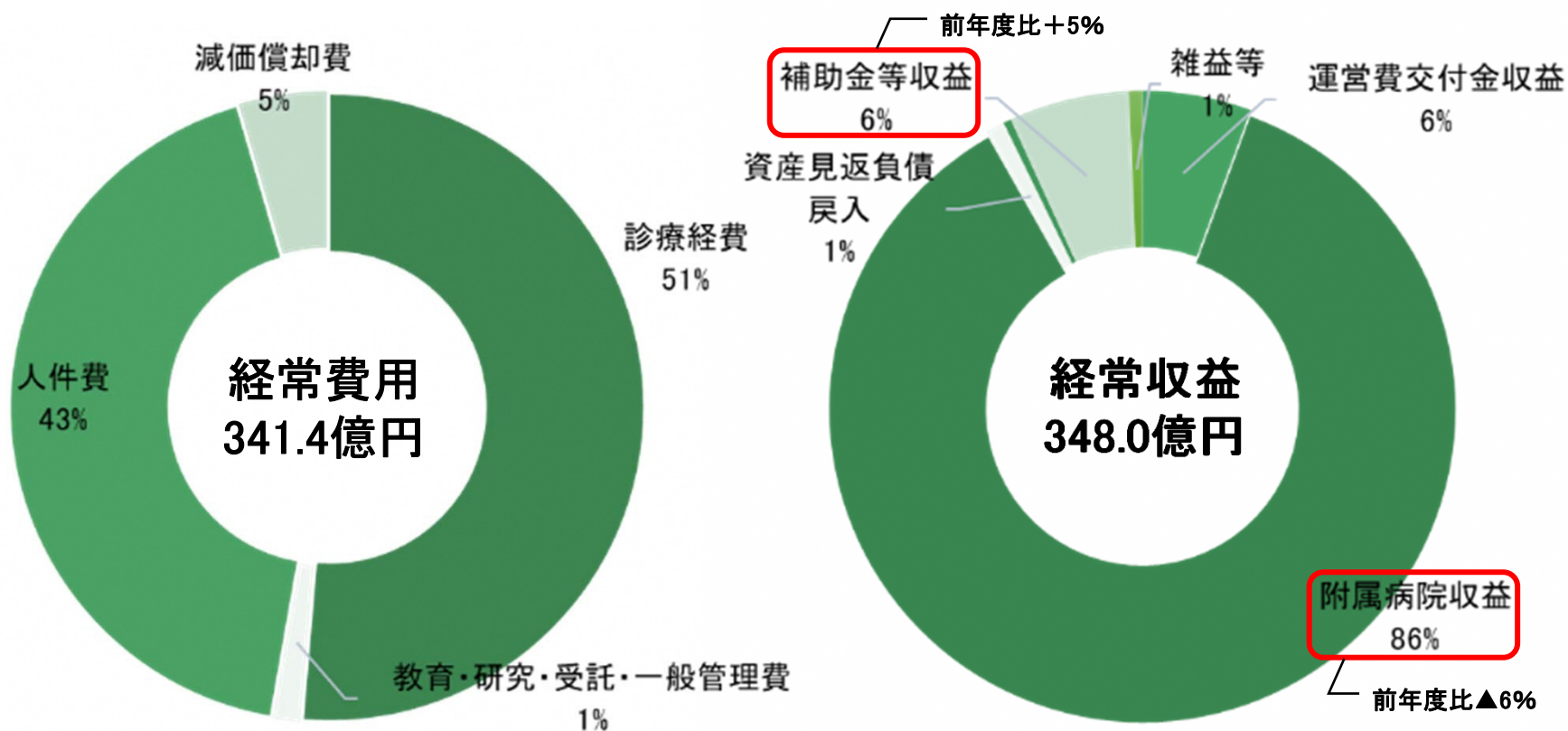
■ 主な増減要因(単位:百万円)

- 【診療 +1,103】…医薬品(+382)、診療材料費(+111)等
- 【人件費 +279】…定期昇給(+116)、コロナ特別手当(+167)退職給付繰入(▲47)等
- 【減価償却費 ▲211】…電子カルテ減価償却終了(▲183)

■ 主な増減要因(単位:百万円)

- 【附属病院収益 +916】入院(+438)…入院単価の増(+9.4%)、入院患者数の減(▲6.1%)
外来(+510)…外来単価の増(+14.6%)、外来患者数の減(▲9.3%)
- 【補助金 +2,283】…コロナ関連補助金(+2,345)

2-6 財務諸表 (經常損益: 主な増減要因)【センター】



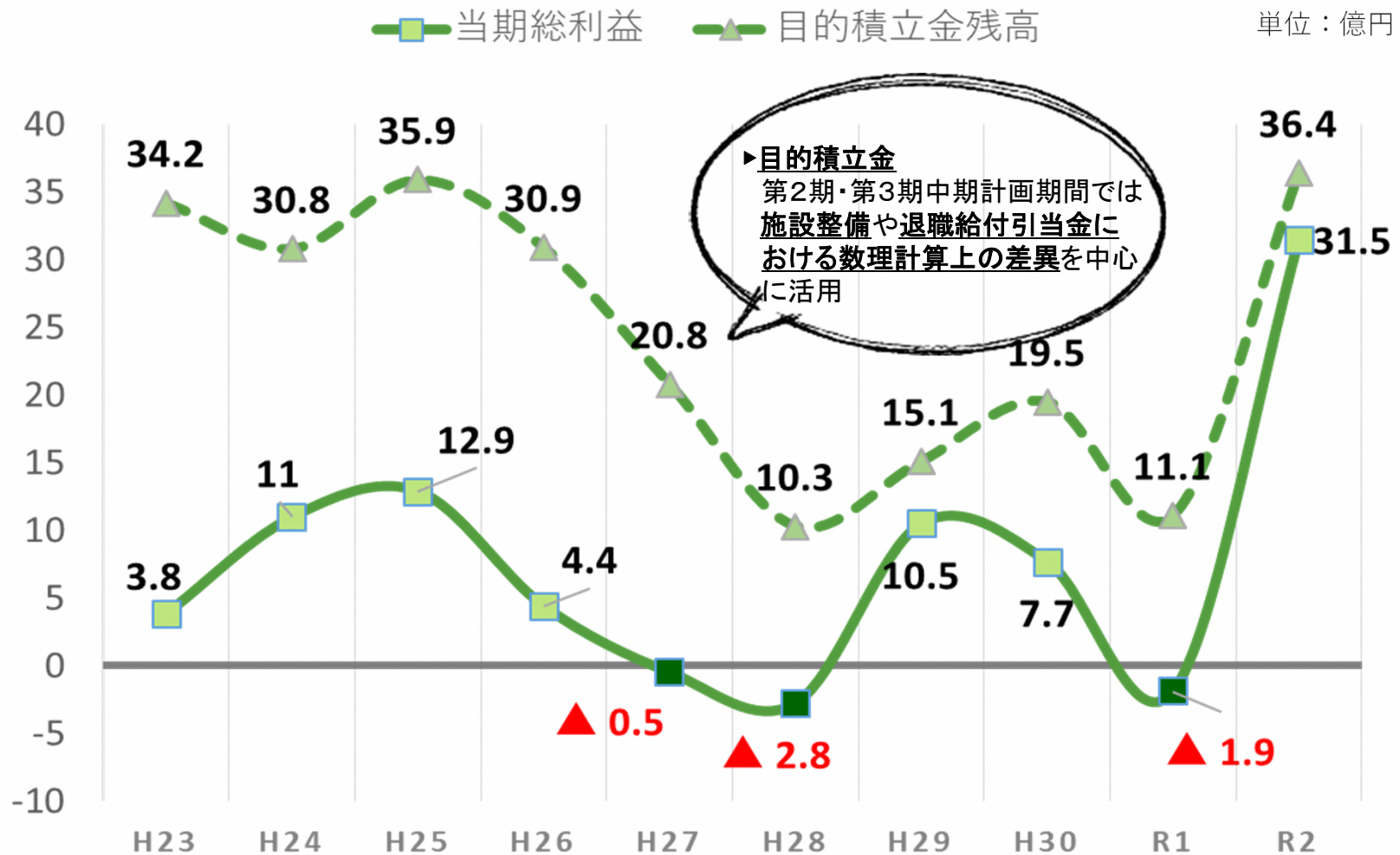
■ 主な増減要因(単位: 百万円)

- 【診療 +956】…医薬品(+600)、診療材料(+209)
- 【人件費 +52】…定期昇給(+114)、コロナ特別手当(+222)
超過勤務(▲119)、退職給付繰入(▲82) 等
- 【減価償却費 +136】…リニアック(+55)、ダ・ヴィンチ(+29) 等

■ 主な増減要因(単位: 百万円)

- 【附属病院収益 +35】
入院(▲314)…入院単価の増(+12.0%)、入院患者数の減(▲12.3%)
外来(+414)…外来単価の増(+13.7%)、外来患者の減(▲10.1%)
- 【補助金 +2,055】…コロナ関連補助金(+2,052)

3 当期総利益と目的積立金の推移



4-1 大学部門における COVID-19への主な対応



- 消毒・検温対応
 - ⇒検温所を設置し、入構者全員に対する検温実施
 - ⇒教室等の消毒作業、アルコールの設置
- 緊急事態宣言下以降のオンライン授業
 - ⇒Zoomの全学一括導入、オンライン授業方法に関するFD研修等を通じた、円滑かつ質の高いオンライン授業実施
- コロナ禍の授業に対応した施設改修
 - ⇒教室への網戸設置 (R3は換気扇設置)、Wi-Fi整備、対面とオンラインのハイブリッド授業を想定した教室へのプロジェクタ設置及び医学部講義室・実習室改修
- 学生への経済支援・食の支援
 - ⇒市の財政支援を受けた「特別災害支援制度」創設 (357名の学生へ給付)、一人暮らしの学生などに向けた「食の支援 (食料品の支給)」の実施
- 「新型コロナウイルス(緊急)対策基金」の設置 (法人部門)
 - ⇒約68百万円、1,539件 (令和2年度実績)を受け入れ



4-2 世界レベルの COVID-19研究



○世界レベルのCOVID-19研究と様々なメディア露出
⇒医学群山中竹春教授・梁明秀教授

公立大学法人横浜市立大学記者発表資料

YUJ 100 1928-2028

厚生労働記者会・厚生日比谷クラブ
文部科学記者会・科学記者会
横浜市政記者会同時発表

令和2年3月9日
研究企画・産学連携推進課

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の患者血清中に含まれる抗ウイルス抗体の検出に成功

公立大学法人横浜市立大学記者発表資料

YUJ 100 1928-2028

厚生労働記者会・厚生日比谷クラブ
文部科学記者会・科学記者会
経済産業記者会・横浜市政記者会 同時発表

令和2年12月2日
広報室

新型コロナウイルス感染症回復者のほとんどが、6か月後も抗ウイルス抗体および中和抗体を保有していることが明らかに

読意新聞 オンライン

TOP ニュース 動画・写真 コラム 特集 おすすめ 会員限定 新型コロナ すべて

医療・健康

再感染防ぐ「中和抗体」、半年後も98%が保有...ワクチンに期待

日本経済新聞

TOP 速報 マネー 経済・金融 政治 ビジネス マーケット テクノロジー 国際 オピニオン スポーツ

新型コロナの抗体、半年持続 横浜市立大が調査・確認

日本経済新聞

速報 マネー 経済・金融 政治 ビジネス マーケット テクノロジー 国際 オピニオン スポーツ 社会

横浜市大、東ソー・関東化学との共同研究において新型コロナウイルスに対する4種類の抗体検出試薬の開発に成功

4-3 附属2病院による COVID-19への主な対応

- 神奈川モデル高度医療機関としての患者の受入れ
⇒【附】人工呼吸器装着の重症例、周産期、透析患者
【セ】体外式膜型人工肺(ECMO)の装着を必要とする重症患者、及び小児、周産期、精神疾患患者



- 院内感染防止に向けた取組の推進【附・セ】
⇒入院前PCR検査の実施、サーモグラフィーによる検温、アルコールによる手指消毒・院内各所の定期的な消毒、感染防護具の確保・管理



- 地域の救急医療体制の協力・連携
⇒【附】県庁COVID-19対策本部・クラスター対策チーム(C-CAT)・感染対策指導チームへ参加、横浜市各局(こども青少年局・健康福祉局・文化観光局)が実施したコロナ対策への協力
【セ】DMAT(災害派遣医療チーム)隊員等による県内クラスター発生に伴う県調整本部への応援、横浜市「感染症・医療調整本部(Y-CERT)」への参加、「エクモカー※」を活した他院との治療連携協定締結

※一般的な救急車よりも車内スペースが広く設計されており、モバイルICUとしてECMO装着患者等の管理(通常集中治療室における管理)にも対応が可能。大容量バッテリーを搭載しており、消費電力の大きいECMOを使用しながら長時間の搬送にも安心して対応できる仕様となっている。

4-3 附属2病院による COVID-19への主な対応

○【附・セ】医療従事者へのフォロー

⇒コロナ手当の支給

①コロナウイルス感染症対応事業者慰労金交付

支給額 一人当たり 20万円(一部10万円) :人材派遣、委託業者も含む
2病院計 約5,500人(附属病院 約2,700人、センター病院 約2,800人)

②業務能率の維持向上のため特殊勤務手当を支給

支給額 一人当たり5万円 :委託業者等は対象外
2病院計 約3,700人(附属病院 約1,800人、センター病院 約1,900人)

③コロナウイルス感染症対応に従事した教職員に対する手当を支給

支給額 一人当たり3~4千円/日 :委託業者等は対象外
2病院計延べ人数 約52,300人(附属病院 約19,600人、
センター病院 約32,700人)

○【附・セ】アーカイブ動画作成・公開

⇒新型コロナウイルス感染症対応の取組を紹介



コラム COVID-19エピソード

○職員間での院内感染徹底防止

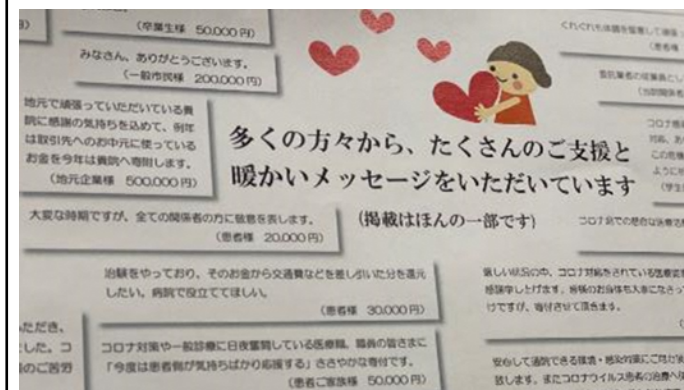
黙食を推進し、密を避けるため講義室を昼食会場とし開放しました。病院長メッセージでは「拾わない」、「持ち込まない」、「広げない」の「3ない」ブロック作戦を複数回呼びかけました。【附】

家族以外での会食を令和2年3月から禁止し、会議室等を昼食会場として開放するとともに黙食を推進しています。始業前の健康観察及び観察シートによる感染制御部へ毎日報告を行っています。【セ】

○患者支援

看護師が、対象となったCOVID-19患者の入院中の様子を「COVIDダイアリー」として日記に付け、ご家族や患者さんにお渡しする取組を行っています。渡された方からは感謝のお言葉をいただいています。【附】

面会禁止の状況において、小児科入院患者家族への主治医からの電話による毎朝の状況報告を行っています。【セ】

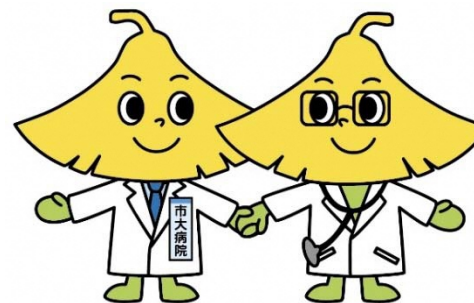


コラム COVID-19エピソード

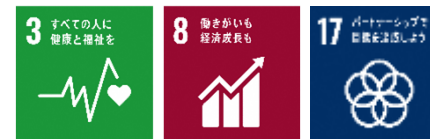
○地域医療機関支援

CT搭載車(CT検診車)が、クラスターの発生した高齢者施設等に赴き、出張型のCT検査・画像診断を提供。新型コロナウイルス肺炎の重症度評価や円滑な搬送調整のために役立てられました。【附】

地域医療従事者へ向けて、感染対策や診療に関する講演等を実施し、地域医療機関からの問い合わせに対し、各施設に応じた対応策を共に検討しました。また、感染防護具の在庫・使用状況を綿密に管理し、可能な範囲で不足している周辺の医療機関にもマスク・ガウン・フェイスシールド等を提供しました。【セ】



4-4 TOPICS (法人経営)



《法人の将来の発展に向けた事業の推進》

○SDGs推進

- ⇒THEインパクトランキング※ 国内大学17位タイ:前年度20位タイ
- ⇒環境管理(法人)やSDGs教育プログラム企画(都市社会文化研究科)等、法人の全活動を通じたSDGs推進

※SDGsの枠組みを通じた大学の社会貢献度を可視化した、英国Times Higher Education社による世界大学ランキング



○大学創立100周年事業

- ⇒学長リーダーシップの下での「創立100周年にありたい大学の姿」公募等を通じた意識醸成
- ⇒ R3年度「横浜仮病院150周年」記念イベント開催の決定(R3年11月13日(土))



○寄附活動・基金制度による自己収入拡充

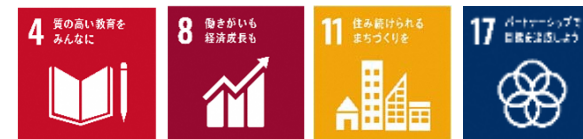
- ⇒ファンドレイザーを中心とした寄附渉外活動
- ⇒「横浜市立大学基金」の設立

寄附額：約177百万円
(前年度比+112百万円、2.7倍)

○医学部・附属2病院等再整備事業

- ⇒横浜市による「横浜市立大学医学部・附属2病院等の再整備構想」策定
- ⇒法人内で聴取した意見を踏まえた検討事項・体制を整理(R3年度～実施)

4-5 TOPICS(大学)



【文科省・JST※補助事業の新規採択】 ※ 国立研究開発法人科学技術振興機構

○デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン(～R3年度)

・「テーラーメイド型学修支援プラットフォームの構築」

「学修者本位の教育」の実現・教育のDX推進

○科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業(～R9年度)

・「データ思考イノベティブ人材フェロシップ制度(スマート健康社会研究)」

博士(後期)課程学生の経済・キャリア支援

○研究成果展開事業 社会還元加速プログラム(SCORE) 大学推進型拠点

都市環境整備型(～R3年度)

・「横浜プラットフォーム」(主幹機関:(一社)横浜みなとみらい21、共同機関:神奈川大・
関東学院大・横浜国大・本学)

「all横浜」のスタートアップ・エコシステム
拠点形成

【文科省補助事業を通じた社会ニーズへの対応】

○超スマート社会の実現に向けたデータサイエンティスト

育成事業(連携先:明治大学・東京理科大学)

⇒第2期生輩出(修了者:文系9名、理系32名、

自治体・社会人短期コース受講106名)



○留学生就職促進プログラム(連携先:横浜国立大学・本学・横浜市・神奈川県)

⇒市内大学に加え、県内自治体・大学へ連携拡大し、より一層の内容充実

4-6 TOPICS (附属病院)

- ロボティックアーム手術支援システム(人工股関節・膝関節置換術)の導入(国公立大学病院初) ⇒患者の術後QOLを向上
- 放射線画像診断体制の強化
⇒みなとみらいサテライトオフィスへの読影拠点の設置
AIを搭載した読影補助システムの導入
- 臨床研究中核病院の申請(事前相談)
⇒申請要件の充足により、令和3年3月に厚生労働省へ申請(事前相談)。
今後書面審査と実地審査を受け、承認されれば臨床研究中核病院として認定
- 遠隔集中治療室(Tele-ICU)による診療支援の開始及びシステム拡張

⇒附属病院及び脳卒中・
神経脊髄センターのICU・
HCUにおける運用開始
(令和2年10月～)
市民病院のICU等への
Tele-ICUシステムの拡張



4-7 TOPICS (センター病院)

- 中長期的な視点での経営改善に資する
施設設備
⇒本館手術室の増設及び手術支援ロボット
(ダ・ヴィンチ)を2台同時に新規導入



- がんゲノム診療における院内体制の構築
⇒がんゲノム医療推進部、遺伝子診療科を新設

- より受診しやすい環境整備
⇒患者さまご自身からの受診予約の取得サービス開始(7月)、
オンライン セカンドオピニオン外来開始(8月)、
本館1階(初診受付等)レイアウト変更(3月)



- 医療従事者負担軽減に向けた各種加算の取得
⇒総合入院体制加算 I、
医師事務作業補助体制加算25対1、
夜間100対1急性期看護補助体制加算 など

5-1 【参考】貸借対照表 (法人全体:資産)

<資産の部>

(単位:百万円)

		令和2年度	令和元年度	対前年度		
資産の部	固定資産	土地	19,047	19,047	-	
		建物・構築物	10,723	10,584	139	手術室増設工事【セ】等により 対前年度比1.3億円の増
		工具器具備品(医療機器含)	10,843	8,560	2,283	
		図書	1,194	1,164	30	
		その他	79	81	▲2	
		有形固定資産合計	41,889	39,439	2,450	医療機器等の取得により 対前年度比22億円の増
		無形固定資産合計	123	100	23	
	投資その他の資産	投資有価証券	133	107	26	
		長期貸付金	111	111	-	
		長期前払費用等	24	8	16	
		預託金・敷金保証金	11	12	▲1	
		投資その他の資産合計	281	239	42	
		固定資産合計①	42,294	39,780	2,514	対前年度比46億円の増
	流動資産	現金及び預金	14,018	9,349	4,669	
		未収学生納付金収入	1	5	▲4	対前年度比7億円の増
		未収附属病院収入	11,172	10,434	738	
		その他未収入金	2,852	831	2,021	補助金等の未収入金の増により 対前年度比20億円の増
有価証券		-	100	▲100		
医薬品及び診療材料		1,060	888	172		
前渡金		88	89	▲1		
その他		151	158	▲7		
流動資産合計②	29,346	21,859	7,487			
資産合計(①+②)	71,641	61,639	10,002			

5-1 【参考】貸借対照表 (法人全体:負債・純資産)

<負債・純資産の部>

(単位:百万円)

		令和2年度	令和元年度	対前年度		
負債の部	固定負債	資産見返負債	13,330	10,663	2,667	当期取得資産の増により 対前年度比約26億円の増
		長期借入金	2,920	2,740	180	
		退職給付引当金	8,075	7,422	653	退職給付費用の増に伴う 引当金の増等により 対前年度比6.5億円の増
		長期リース債務	1,673	2,015	▲342	
		その他	206	154	52	
		固定負債合計	26,207	22,995	3,212	
	流動負債	運営費交付金債務	-	76	▲76	当期受入額の増等により 対前年度比2.3億円の増
		寄附金債務	1,253	1,041	212	
		前受受託研究費等	1,291	1,055	236	
		一年以内返済予定長期借入金	1,320	1,835	▲515	対前年度比41億円の増
		未払金	11,117	6,969	4,148	
		短期リース債務	906	866	40	
		その他	944	750	194	
		流動負債合計	16,836	12,594	4,242	
負債合計③		43,043	35,589	7,454		
純資産の部	資本金		19,047	19,047	-	
	資本剰余金		5,872	5,890	▲18	
	利益剰余金	教育研究診療・組織運営改善積立金	497	1,304	▲807	対前年度比33億円の増
		当期未処分利益	3,151	▲194	3,345	
		利益剰余金合計	3,649	1,109	2,540	
	その他有価証券評価差額金		28	2	26	
純資産合計④		28,597	26,049	2,548		
負債純資産合計(③+④)		71,641	61,639	10,002		